



# YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2018年7月号

## 今後入試問題はこうなるかも！

先月、高校入試の説明会に参加しました。このころ毎年のように受験で新傾向問題が出題されているのですが、それはすべて今後行われる受験改革に向けての序章に過ぎません。

では何故受験改革が行われるのか？

今までの日本の教育は正解の出せる人を大量生産してきました。俗に言われる金太郎飴教育です。右と言われれば全員右を向くような上司にとってはとても使いやすい人材の育成でした。それは大量消費、大量生産の時代にはベストマッチで、一時日本は世界のNO.1にまで上り詰めました。

しかし、時代は変わり大量消費、大量生産の時代は終わり、多様性の時代を迎えました。少量、多品種、高付加価値の時代に入ってくると日本の力は少しずつ衰えはじめたのです。学力の基準も大きく変わり、以前ではNO.1だった日本の学力もどんどん落ちてきました。

そんな時代に求められる人材とはズバリ、正解を出せる人ではなく、学んだ知識を活用できる人なのです。

今までの入試問題は知っているのかどうかを問うような問題や、aとbを求めよといった問題はわかりました。ところが、これからの問題はどのように単純に出来るかどうかという問題や覚えているかとい

う問題の出題確率はどんどん減ってへると思われるかもしれません。それに反して「この文章や表を見てどのようなことが考えられるのか答えよ」といった考え方を述べさせるような問題が増えてくる傾向になります。

現実社会では、単純に知識を問うような課題はインターネットの発達により、知らなくても検索すればいつでもどこでも調べることが出来る時代になり、知っていること自体が今までのように大きな価値を生まなくなっています。

それよりも大量の情報の中からの情報が大事なのか？その情報からどのようなことが読み取れるのか？それに対してどのような対策を講じなければならぬのか？そしてそれをどのように伝えるべきなのか？を速く判断できる人材が求められるのです。そのような意味で、今回の受験改革はとても画期的な改革になるのではないかと感じています。

今までの勉強は受験のための勉強で、学習したものがどのように役に立つのかとても不明確でした。しかし、これからは社会に役立つ能力としての学びが増えてくる展開になっていくでしょう。

じゃあ具体的にどのようなふうに変っていくのか？  
1. 問題文が非常に長くなる。  
2. 問題文が1つではなく、異なる2つの文章を読ませたり、文章と写真、グラフ、表を関連付けて答えさせたりする問題

が増える。  
3. 実際に起こっている身近な問題（今ならワールドカップ、大雨）を題材にした問題がふえる。  
4. 答えのないような問題（あなたの考えを述べよ）が増える。  
5. マークシートの問題も正解を1つ探す問題が減り、正しい（誤っている）ものをすべて選べという勘では正解出来ない問題がふえる。という傾向にあります。

このようなテストの変化は、2020年からセンター試験が廃止され共通テストに変わることが影響しています。この変化に追隨して高校入試や中学入試の内容も大きく変わってきているのです。特に1の問題文が非常に長くなるというのは脅威です。今までのセンター試験の歴史の問題は20ページくらいだったのですが、なんと倍の40ページになったのです。歴史だけではなく数学までもが文章量が増え、数学の問題なのか国語の問題なのか境界が無くなってきつつあります。この傾向は全体的に言えることで、英語でも英文の内容は理科の生物だったり、歴史の内容だったりする可能性が出てきています。

学習指導要領もこれからどんどん変わっていくので、今の小学6年生が大学受験をする頃が一番のピークになると思われます。それに向けて塾でもしっかりと対策をしていきたいと考えています。速読で読書速度を高め、作文力を強化しているのもその一環なのです。糸島学習塾YESでは真の国語力の強化に取り組んでいきます。

# やる気相談室

## 正観

### ものの見方・考え方の極意とは？

速聴読のメソッドを伝

授いただいた太田先生に  
勧められて、小林正観氏の  
CDを聴いています。小林  
氏は、もつすでにお亡くな  
りなのですが、生前は年間  
300回以上も講演なさ  
るような大人気の学者さ  
んでした。著書も90冊以

上で、人気は未だに衰えず、新しい本が未  
だに出版されているのです。

銀座まるかんの創業者でもあり、12年  
連続で長者番付にランクインした齊藤一人  
氏も小林氏の考え方に大きく影響を受けて  
いらつしやるとのこと。齊藤氏は小林  
氏が本を出版なさると数百冊単位で購入な  
さっていたのだそうです。

私は齊藤一人さんの本を読んでとてもわ  
かりやすい、腑に落ちるといっても感心して  
いたのですが、そのルーツが小林正観氏だ

ったのかと改めて勉強になった次第です。

その小林氏のCDなのですが、とてもわ  
かりやすく宇宙の法則や前向き思考につい  
てまとめてあります。プラス思考にするこ  
とが宇宙の法則とかいう本はどこか宗教的な  
要素が入っていたりして、人によっては嫌  
悪感を抱くような場面も出てくるのです  
が、小林氏のCDにはそのような要素はほ  
とんどなく、とてもシンプルに表現されて  
いるので、多くのみなさんから指示されて  
いるのではないかと思います。

そこで、小林氏の見方道という道を究め  
ようと努力しそのことを多くの方に伝えよう  
としていらつしやるたようです。コップに  
半分の水が入っているのをよく「半分しか  
入っていない」と考えるのか「半分も入っ  
ている」と考えるのかで大きく違つという  
のは良く耳にすると思うのですが、小林氏  
はその上に「半分残してくれてありがとう」  
という見方があると仰っていました。  
あと一つ印象的だったのはプラス思考と  
いう考え方はないということとても意味深い話

でした。これを説明する前にみなさんは般

若心境の「色即是空」という言葉を聞いた  
ことがあると思いますが、その意味をこの  
ように説明なさっていました。空と言つた  
は意味付けをしないでそのまま見ることな  
のです。コップの中に水が半分という事実  
をそのまま見ることが空という意味なので  
す。それに対して多いとか少ないとか私た  
ちが自分で解釈することを色というのだそ  
うです。色を付けているのは我々で真実は  
すべて空であるということのようです。な  
ので、マイナスのことを無理やりプラスに  
見るのではなく、元々空の状態のものをど  
うせ解釈するなら少しでも良い方向に解釈  
していった方が気持ちが良いのではないで  
すか？と述べられていました。私もまだま  
だ、見方道をかじり始めたばかりですが肩  
の力が抜けて気分が楽になってきました。  
糸島市の図書館にも小林氏の本は沢山あ  
りますので読んでみてください。特に齊藤  
一人さんファンの方は必見です(笑)

#### 書籍紹介 辞書引き学習で子どもが見る見る変わる 深谷圭助著

この辞書引き学習法はこれまでの辞書引き学習法とは異なり、知っている言葉を見つけて付箋を付けていくことで、子供たちが言葉の世界の興味を持ち言葉に対する認識が深まり、その結果日本語力がどんどんついてくる画期的な手法なのです。この本の著者である深谷氏は現場の小学校教諭、中学校教諭を経てその能力を買われ立命館大学の系列である立命館小学校の設立準備室室長、そして副校長、校長を歴任された後、非営利活動法人子ども・ことば研究所理事という立場でこの辞書引き学習を世界に広めようと活躍なさっておいでの方です。机上の空論ではなく現場で生み出されたメソッドなのです。私がこの方法を導入しようと思った理由は小学校低学年だけでなく誰もがそのレベルに応じて実践できることと、頑張りが付箋を貼るといふことで目に見える形で現れるということです。今、学校では小学校3年生で辞書引きのカリキュラムが組まれています。辞書の引き方は教えられるものの、辞書に触れる機会が減っているのではないのでしょうか？学校に辞書を置いておくようになってその辞書はほとんど使った形跡がないようです。辞書は使うことで価値が出るので、2年くらいで買い替えるくらい使うのが望ましいのだそうです。今、速聴読の生徒はどんどん付箋を辞書に貼っています。これからの成長が楽しみです。

